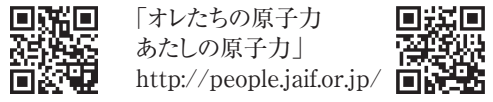


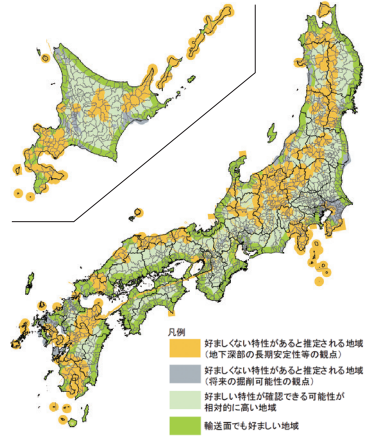
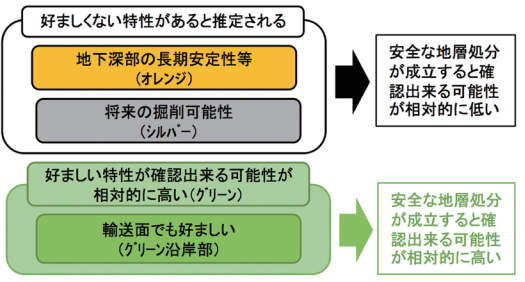
- ◆行くな...
ふくしまの旅 —福島県観光情報—
福島県の観光スポット、旬の地域情報が満載!
<http://www.tif.ne.jp/>
- ◆聴くな...
NPO法人富岡町3.11を語る会
富岡町の実態を町民自らの言葉で語り伝えます。
http://www.odagaisama.info/?page_id=24
- ◆買うのなら...
公益財団法人福島県観光物産交流協会
福島県の特産品などが購入できます。
<http://www.tif.ne.jp/bussan/index.html>
- ◆JAIFから...
「もうひとつ先の私たちへ。
～新たな未来へつづく浜通りのいま～」
<http://www.jaif.or.jp/tag/fuku>



「オレたちの原子力
あたしの原子力」
<http://people.jaif.or.jp/>

2017年7月「科学的特性マップ」公表

原子力発電に伴い発生する高レベル放射性廃棄物の処分について、全国の皆さんに関心や理解を深めていただくよう、国は2017年の7月に地域の地下環境などの科学的特性を全国地図の形で表した「科学的特性マップ」を公表しました。



詳しくは経済産業省資源エネルギー庁の「科学的特性マップ公表用サイト」をご覧ください。
http://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/nuclear/rw/kagakutekitokuseimap/

お耳を拝借

食の境界線 おでんの味と具はここまで違う?

寒さがグッと増すこの時期、恋しくなるのがだしで具材を煮込むおでん。一杯飲みながら、フーフー言いつついただくおでんは最高です。そんなおでんも地域ごとに違いがあるようです...

紀文の『鍋白書2016』によると、20～50代の主婦1400人に対して行ったアンケート調査で、おでんの好きな具材を尋ねたところ、1位の大根、2位の卵は地域を問わず不動の人気ようです。3位以下を東西で見ると、東京においては、3位にはんぺん、4位にはちくわぶがランクインしましたが、大阪ではランク外。かわりに大阪では、東京でランク外の牛すじが4位。こうなると大阪の3位は...? こんにゃくでした。

東西だけでなく、全国でご当地おでんがあるそうで、種ものをしょうが味噌ダレで食べるのが青森風。黒はんぺん・牛すじだしで、黒いつゆが特徴なのは静岡風。かつおだしに八丁味噌を加えて煮込む古屋風、かに面や車麩など珍しい具材の金沢風、鶏だしが特徴の博多風。あごだしでコクを出した長崎風、豚足などを入れる沖縄風など、バラエティー豊か。



なんだか全国のおでんを制覇したくなります。あなたの地域はどんなおでんですか?

編集後記

『JAIF TIMES Vol.5』では、「見て聴いて知る、福島」と題し、第17回見学会の様をお届けしました。

東日本大震災の津波被害に加え、福島第一原子力発電所の事故の影響で、復興が難航している福島県沿岸部の「浜通り」地方。避難指示が解除されたところもありますが、住民の帰還や整備の遅れなど不安な面も多く残る中、大熊町、富岡町、楡葉町、川内村、そして福島第一原子力発電所の今を見て聴いて知る有意義な見学会となりました。

お忙しい中、ご案内役をお引き受けいただいた皆さまにこの場を借りて改めてお礼を申し上げます。

今後も皆さまの活動に役立てていただけるような内容を目指して頑張りますので、ご意見など、どんどんお寄せください。これからもよろしくお願ひ申し上げます。(ノムリエK.S.)

JAIF Regional Network TIMES

人をつなぐ・地域をつなぐ—いっしょに明日の原子力を考える

2018年2月 Vol. 5

見て聴いて知る、福島 9人の声に触れた3日間



JAIF地域ネットワーク 第17回見学会 概要

原産協会JAIF地域ネットワークは、2017年11月6～8日の2泊3日で「第17回見学会」を、下記の行程で実施しました。この見学会には、全国から12名の方が参加されました。

- 1日目:11月6日(月)
JR郡山駅に集合・出発→(バスで移動)→大熊町(大川原地区ライスセンター、福島復興給食センター(車内))→JAEA廃炉国際共同研究センター→富岡町(帰還困難区域境界、太陽光発電事業地、JR常磐線夜ノ森駅、富岡海岸など)→富岡ホテル
- 2日目:11月7日(火)
JAEA楡葉遠隔技術開発センター→楡葉町(Jヴィレッジ、前原地区集会所、天神岬など)→旧エネルギー館→福島第一原子力発電所→富岡ホテル
- 3日目:11月8日(水)
川内村(田ノ入工業団地、コドモエナジー株式会社、野菜工場株式会社KIMiDoRi、大平ヴィンヤード)→JR郡山駅着・解散



11月6日

郡山～大熊町～富岡町

13:00 ●JR郡山駅に集合。バスで大熊町に向け出発!



14:50 ●大熊町・大川原地区(大川原地区ライスセンター) 案内者 武内佳之氏



大熊町役場 大川原連絡事務所長



●大熊町:全町民1万1,505人が町外への避難生活を余儀なくされています。大川原地区を大熊町復興拠点と位置づけ、復興のシンボルとして新庁舎整備計画が進行しています。

15:30 ●富岡町・JAEA廃炉国際共同研究センター視察 https://fukushima.jaea.go.jp/initiatives/cat05/haishi02.html



案内者 若井田育夫氏 廃炉国際共同研究センター(CLADS)国際共同研究棟運営管理室 室長



CLADSは国内外の英知を集結する拠点として、2017年4月に完成しました。今後は廃止措置に向けた研究開発と、人材育成を一体的に進めていきます。国際共同研究棟では、「分析装置SEM/EDS」(写真)を使っ...

16:15 ●富岡町内(車窓から) 案内者 仲山弘子氏



NPO富岡町3・11を語る会 語り人(かたりべ)



富岡町は道路を一つ挟んで、避難指示解除区域と帰還困難区域が存在します。2017年の4月には避難解除になりましたが、帰町者は300人ほどでまだまだ厳しい状況です。

18:00 ●富岡ホテル・ショートスピーチ「富岡ホテルができるまで」 https://www.tomiokahotel.jp/



講演者 渡辺 史(つかさ)氏 富岡ホテル株式会社 代表取締役



富岡ホテルは2017年10月17日、富岡駅前オープンしたビジネスホテルです。キャッチコピーは「フクシマ、最前線」。私は、震災後しばらくして、宿泊場所が足りないということを耳にし、若手のためにも富岡町で今後長続きする事業として、仲間8人でホテルを開業することを決意しました。地域の名所「夜ノ森の桜並木」、津波で消失した「ろうそく岩」など、客室やレストランにはふるさとの記憶を伝える風景画を飾っています。

11月7日

富岡町～檜葉町～福島第一原子力発電所

09:00 ●運転再開した富岡駅



2017年10月21日にJR常磐線の竜田駅-富岡駅間で、6年7か月ぶりに運転を再開しました。駅には食堂併設のコンビニ「さくらステーションKINONE(きのね)」があり、お昼時には近くで作業する方々の憩いの場所になっているそうです。

09:30 ●JAEA檜葉遠隔技術開発センター http://naraha.jaea.go.jp/



案内者 加藤 貢氏 福島研究開発部門 檜葉遠隔技術開発センター モックアップ試験施設部 プロジェクト管理課 課長



福島第一原子力発電所の廃止措置推進のために遠隔操作機器(ロボット等)の開発・実証試験を行う施設として2016年4月に本格運用を開始しました。バーチャルとリアルの世界を結合し、福島第一原子力発電所に技術を持ち込むことができるか研究・試験等を行っています。

11:00 ●檜葉町 案内者 松本昌弘氏 手島健祐氏



復興推進課 主査 くらし安全対策課 主査



2015年9月5日に避難指示が解除された檜葉町では、「Jヴィレッジ」「前原地区集会所」「天神岬」などを視察しました。

●Jヴィレッジ:2019年の全面再開に向け、日本初となる全天候型練習場やホテル棟の建設など準備が着々と進行中です。

●前原地区集会所:津波に耐え、ボツンと残った前原地区集会所の室内には物が散乱しており、今も被害の大きさを伝えています。

13:00 ●福島第一原子力発電所 案内者 上田 力氏



東京電力HD福島第一廃炉推進カンパニー 視察コミュニケーションGr. マネージャー

富岡町の旧エネルギー館で福島第一原子力発電所の状況をご説明し、用意したバスで現地まで移動いただきました。入退域管理施設で線量計を装着し、構内視察用バスに乗り換え、下記のとおりバスの車窓から視察しました。構内の大部分では、一般作業服での作業が可能となっています。

- ①多核種除去設備(ALPS) ②1~4号機外観確認 ③凍土遮水壁設備 ④海側設備 ⑤乾式キャスク保管庫 ⑥非常用ディーゼル発電機6B ⑦夜ノ森線鉄塔倒壊現場 ⑧サブドレン浄化設備建屋 ⑨乾式キャスク仮保管設備 ⑩事務本館 ⑪免震重要棟



2023年度の使用済み燃料取り出し開始を目指す1号機 外見上は損傷が見られない2号機 使用済み燃料取り出しに向けてドームを設置した3号機



燃料の取り出しが完了し、カバーで覆われた4号機 サブドレン 免震重要棟

11月8日

川内村～郡山

09:30 ●川内村 案内者 井出 茂氏 川内村議会議員・川内村商工会長



2012年1月に帰村宣言をし、復興を加速させている川内村では、雇用の場確保と定住人口の増加を図るため、「田ノ入工業団地」の造成、企業誘致を進めています。川内村に進出した蓄光製造タイルメーカー「コドモエナジー株式会社」、完全密閉のクリーンな工場...

で野菜を栽培する「株式会社KiMiDoRi」を視察しました。その後、村の北西部に移動し、官民による「ワインの里」づくりを目指すぶどう畑を訪ねました。

●コドモエナジー株式会社:ガラスの粉と蓄光顔料を混ぜた「ルナウェア」という素材を生産し、非常口のパネル等の製造を手掛ける会社(本社:大阪市)です。

震災後、帰村活動に取り組む川内村の支援となるように2014年7月に工場を移転。2016年11月には同村内にタイのコーヒーチェーン店の日本1号店「Café Amazon(カフェアメイゾン)」もオープンさせました。

コドモエナジー株式会社: http://www.codomo-e.co.jp/project/

●野菜工場株式会社KiMiDoRi:人工光型の野菜栽培施設です。完全密閉のクリーンな工場で、徹底した衛生・品質管理体制の下、野菜を栽培しています。土を使わない・無農薬・日持ちがいいなどの特長があり、洗わずに食することができます。一部東京の福島県アンテナショップでも購入可能です。

KiMiDoRi(キミドリ): https://www.kimidori-corp.com/

●大平ヴィンヤード(ぶどう畑):阿武隈山地の一角「大平(おおだいら)」と呼ばれる丘の南向き斜面に広がる約3ヘクタールの広大な土地に、圧巻の約1万本のぶどう畑が広がっています。ワインを通じて多くの方にお越しいただき、豊かな自然の川内村を知っていただくとともに地域振興に役立てたいと思っています。

残念ながら、すでにぶどうの収穫は終わっていましたが、素晴らしい眺めに感動の声があがりました。

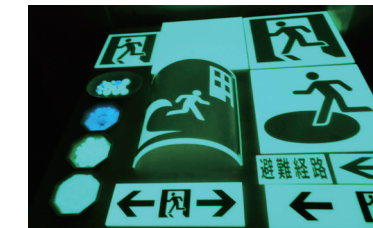
13:50 ●JR郡山駅に到着・解散。



風評被害払拭に向け、地域の商品購入で協力していきたい。 自治体、町民の方がもがきながらも前向きに取り組んでおられる姿が印象的でした。 必ず世界に誇れる廃炉作業を成し遂げ、日本の物づくりの意地を見せてほしい。 福島の第一原子力発電所の労働環境が大きく改善されており安心しました。 自分の目で見るのが一番。報道だけでは知り得ないことを多くの方に知ってほしい。



コドモエナジー:第一工場内設備



コドモエナジー:避難誘導・衝突防止などに使用される蓄光タイル



野菜工場KiMiDoRi:人工光型の野菜栽培施設を備える野菜工場KiMiDoRi



完全密閉水耕栽培の野菜

「大平ヴィンヤード」を守る横田さんと